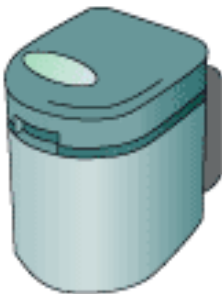


生ごみ処理機と生ごみ処理容器

	生ごみ処理機(電気式)		生ごみ処理容器
	乾燥式 (3～10ℓ)	バイオ式 (3～10ℓ)	コンポスト容器 (100～200ℓ)
	 		
処 理 に かかる時間	2 時間程度	5 時間～24 時間	6 ヶ月程度
減 容 量	約 1 / 7	約 1 / 10	約 1 / 2 ～ 1 / 3
設 置 場 所	屋内・屋外		屋外
方 式	○乾燥方式 高温の熱や温風によって生ごみの水分を除去し、生ごみを乾燥させて、処理する方式。 生ごみの減量・脱臭ができ、処理物は除菌されているので、手で触れることができる。焦げたような臭いや独特の臭いがある。 基本的に、電気代以外はかからない。	○バイオ分解方式 (ハイブリッド式) バイオチップに含まれている微生物を使い、生ごみと水と炭酸ガスに分解する方式。 処理物は肥料にすることができる。運転中は腐葉土のようなニオイがする場合がある。電気代は少しですむが、バイオチップ代がかかる。	○発酵分解方式 生ごみを投入し、乾いた土や落ち葉、雑草などを入れて有機物をエサとする微生物により発酵・分解していく方式。 畑など屋外で土に穴を掘り、20cmほど埋めて設置をして使用する。
補 助 金 額	購入価格の 1 / 2 以内の額 (上限20,000円・100円未満の端数は切捨て)		購入価格の 1 / 2 以内の額 (上限5,000円・100円未満の端数は切捨て)
補 助 基 数	1 世帯当たり 5 年度につき 1 基を限度とする。		1 世帯当たり 5 年度につき 2 基を限度とする。